



日本キリスト教団  
三軒茶屋教会

<https://sanchurch.jp/wp/>

# 三軒茶屋 教会通り

第66号 2022年7月発行

〒154-0024  
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5  
TEL/FAX: 03-3418-4933  
発行: 三軒茶屋教会 広報部

「教会さんでも1階をコンビニにでもすればきつと儲かりますよ。朝晩は人通りも多くて、このこと同じ角地だし。」取り壊し中の隣家の前に立ち止まっていたら、通りがかりの人にその声を掛けられた。その人は長くこの地に住んできて、地域の移り変わりを見届けてきたようだ。

確かに、この地域は変化した。70年前の教会設立の当時のままではない。子どもが少なくなり、高齢者が多くなり、空き家が増えた。独り住まいの方が多く、引越しも頻繁にある。かつて教会近くに住んでいたが遠方に居を移した教会員もいる。

では、教会も1階をコンビニにすれば将来は安泰になるのだろうか。

ある教会は、個人から借り入れた資金で5階建のビルを敷地一杯に建設し、礼拝堂と集会室がある階以外は賃貸物件とした。しかし、数十年が経過してみると建物維持の経費がかさみ、賃貸収入からの借入金返済が滞るようになり、借入先と係争状態らしい。当初に思っていた理想の教会運営からはかけ離れてしまったに違いない。

別のある教会は、金融機関から資金を借り入れて、敷地に9階建のビルを建設し、階上を賃貸住宅として

## そこにたっている教会

—託された使命のために—

牧師 伊藤英志

貸し出す事業案を協議しているという。その収益事業によって将来に予想される教会運営上の資金不足を補おうという計画なのだろう。

他の教会が下した決議、また協議している計画に外から異を唱えるわけにはいかない。いずれにせよ、背後に共通するのは、将来の教会存続に不安を覚えているということだ。

教会員が減っていく。献金が予算に達しない。会堂維持の経費がかさむ。それらを綿密に計算してみれば、多くの教会が何らかの手立てを考えなければならぬと感じるだろう。

では、その手立てとは、この世に属する方法に拠るべきなのか。それとも、ただ御心を追い求めながら今ある恵みができるだけ生かそうとするのか。誰もが納得でき、誰もが安心できる決定的な答えは直ぐには出てこない。

教会の歴史を振り返ると、地上の教会はどの地にあっても安泰であったことはない。迫害にさらされ、資金難にも陥った。政治的な争いにも



巻き込まれた。自然災害によってその歩みが断たれた教会もある。もし、それが御心であるならば、心鎮めて受け入れる他ない。

しかし、今日、その教会が存続できている、礼拝を守れているならば、とにかく主日礼拝を誠実に守り、一同が祈りを込めて、それぞれがなしうる限りの奉仕と献げのもので、天にある御旨がこの地に成就するようお願いすることを止めてはならないだろう。

今後、多くの教会が更なる困難にあえぐかもしれない。たとえコロナ禍を過ぎ越しても、直ぐには明るい展望が開けないかもしれない。

それでもなお、主キリストの福音を生き生きと宣べ伝え、神の御業を証しし続ける群れであり続けたい。コンビニと同じにはできないが、多くの人々を招き入れられる場でありたい。そして、一つでも多くの御心が現れ出る教会でありたい。なぜなら、この地にたてられている教会には使命が託されているからだ。世の中が大きく変化しても、多くの人々を福音の心理へと招く使命を果たそうとする。そのような果敢な群れであり続けたい。